

静嘉堂文庫 が新たな扉を開く！

＝ 静嘉堂文庫所蔵の古典籍（和書）を国文研でデジタル化・公開 ＝

概要

国文学研究資料館（以下、「国文研」）と公益財団法人静嘉堂 静嘉堂文庫（以下、「静嘉堂文庫」）は、日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画におけるデータベース構築に関する覚書を6月に締結しました。

国文研は、静嘉堂文庫が所蔵する古典籍のうち、近世以前の国書でマイクロフィルム化されている資料を中心にデジタル化し、「新日本古典籍総合データベース（<https://kotenseki.nijl.ac.jp/>）」により順次公開していきます。



静嘉堂文庫外観（世田谷区岡本）

静嘉堂文庫は、岩崎彌之助（1851～1908 彌太郎の弟、三菱第二代社長）と岩崎小彌太（1879～1945 三菱第四代社長）の父子二代によって創設・拡充され、現在、国宝7件、重要文化財84件を含む、およそ20万冊の古典籍（漢籍12万冊・和書8万冊）と6,500件の東洋古美術品を収蔵しています。

閲覧には予約が必要です。

詳細はHPをご参照ください。

文庫の活動は、彌之助の恩師・重野安繹の国史編纂事業の援助に端を発します。彌之助は、我が国固有の典籍・文化財を守りたいという思いから、学者・蔵書家の蔵書を次々に一括購入しました。明治27年には『徒然草』『平仲物語』など和書の善本を多数含んだ青木信寅旧蔵書、明治40年には陸心源旧蔵の宋元版などを一括で購入しています。

小彌太も父の志を嗣いで文庫を拡充し、諸橋轍次を文庫長に迎え、陸氏本の書肆『静嘉堂秘籍志』50巻の上梓などのほか、蔵書目録の刊行、貴重書の複製事業などを行い、第二次大戦中も閲覧公開を継続しました。『大日本国語辞典』を著した松井簡治旧蔵書や洋学・蘭学が充実した大槻文庫など、蔵書は質量ともに豊富です。

本件に関するお問い合わせ先

国文学研究資料館
古典籍共同研究事業センター事務室 管理係
E-mail: cijinfo@nijl.ac.jp
TEL: 050-5533-2988 / FAX: 042-526-8883
<https://www.nijl.ac.jp/pages/cijproject/>

公益財団法人静嘉堂 静嘉堂文庫
閲覧対応係
E-mail: etsuran@seikado.or.jp
<https://www.seikado.or.jp/about/seikadoubunko.html>

◆◆ 共同プレスリリース ◆◆

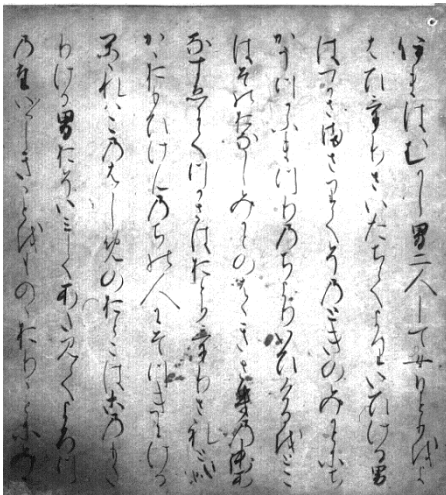
令和4（2022）年7月7日

公開予定資料のご案内

第1弾として、マイクロフィルム「歌学資料集成」、「物語文学書集成」、「国語学資料集成」、「古辞書集成」（いずれも丸善雄松堂販売）のデジタルコンバートにより画像を作成し公開します。

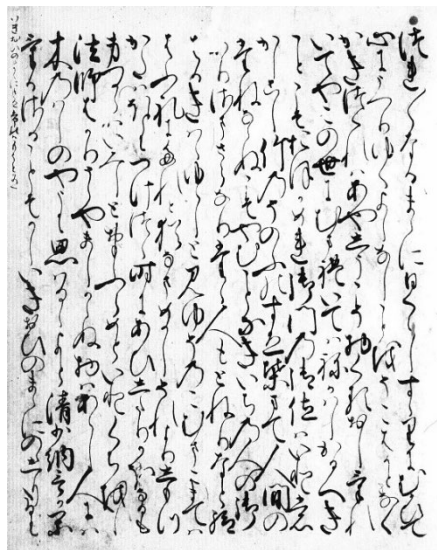


『平仲物語』 (へいちゅうものがたり)



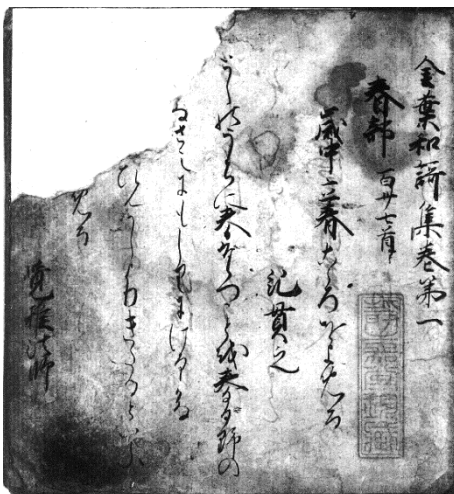
平安時代中期の歌人、平貞文（たいらのさだふみ）の家集『貞文集』を核にしたという歌物語。鎌倉時代後期、冷泉家の祖である冷泉為相（れいぜいためすけ）写と伝える。本書は現存する唯一の伝本で、国の重要文化財に指定されている。

『徒然草』 (つれづれぐさ)



『枕草子』、『方丈記』と並び日本三大随筆と言われる。作者は吉田兼好（1283? - 1352年以降）。本書は『徒然草』の現存する最古の写本で、「正徹本」として有名（永享3（1431）年の正徹（しょうてつ）の書写）。正徹（1381 - 1459）は、室町時代を代表する歌人で、多くの古典を書写したことで知られる。

『金葉和歌集』 (きんようわかしゅう)



平安時代後期に白川院の下命を受けた源俊頼（みなもとのとしより）により編纂された勅撰和歌集。俊頼は3度に渡って院に奏覧し、3度目により納められた。奏覧それぞれの系統の本を「初度本」「二度本」「三奏本」と呼ぶが、「初度本」の伝本は本書が唯一で貴重である。『平中物語』と同じく冷泉為相写と伝える。

『静嘉堂文庫国書分類目録〔正〕』、『静嘉堂文庫国書分類目録 続』、『静嘉堂文庫国書分類目録再続』（静嘉堂文庫、1929-1956刊）に掲載された古典籍の書誌情報についても「新日本古典籍総合データベース」で公開する予定です。静嘉堂文庫の和書の書誌情報についてはこれまでこれら紙の目録で探す必要がありましたが、今後は資料の検索が容易にできるようになり、利便性が高まります。

画像の報道利用について

本リリースに使われた画像は、報道目的の場合のみ利用可能です。画像は以下よりダウンロードいただけます。

https://www.nijl.ac.jp/pages/cijproject/20220707_release_supple.zip（令和4（2022）年9月30日まで公開）

静嘉堂文庫および国文学研究資料館のご紹介



「静嘉堂」の名称は、中国の古典『詩経』の大雅、既醉編の「籩豆静嘉（へんとうせいかに）」の句から採った岩崎彌之助の堂号で、祖先の霊前への供物が美しく整うの意です。

静嘉堂文庫は、岩崎彌之助が明治25（1892）年、神田駿河台（東京都千代田区）の自邸内に創設した文庫「静嘉堂」を起源としています。彌之助は兄で三菱創設者である岩崎彌太郎に従って実業界に入る以前、漢学を学んだ経験があり、恩師である重野安繹（成斎）の研究を援助する目的から古典籍の収集を始め、和漢の古書や古美術品の収集を熱心に行いました。明治40（1907）年には清の集書家、陸心源の「皕宋楼」旧蔵書4万数千冊を購入し、宋・元の版本多数を含む貴重なコレクションが文庫にもたらされています。

彌之助の死後、その子・岩崎小彌太は、父の遺志を受け継ぎ文庫を拡充。明治44（1911）年に岩崎家の高輪別邸（東京都港区）に移転し、諸橋轍次（1883～1982）文庫長の下、活動が継続されます。さらに大正13（1924）年、小彌太は父の17回忌に世田谷区岡本にある玉川霊廟（ジョサイア・コンドル設計）の側に現在の文庫（桜井小太郎設計）を建設し広く研究者への公開を開始しました。昭和15（1940）年には財団法人静嘉堂を創立し、蔵書や文庫の施設など一切を財団に寄付しました。

昭和52（1977）年からは付属の展示室を設けて静嘉堂の収蔵する美術品の公開を開始し、平成4（1992）年には創設100周年を記念して、新たに静嘉堂文庫美術館を建設・開館しました。そして平成21（2009）年、公益財団法人の認定を受けました。

静嘉堂文庫美術館の展示ギャラリーは、令和4（2022）年10月に、美術館の開館30周年ならびに三菱創業150年（令和2（2020）年）の記念事業の一環として東京都千代田区丸の内明治生命館に移転します。移転するのは展示ギャラリーのみで、美術品の保管、静嘉堂文庫（書庫）の業務、および庭園の管理は引き続き従来の世田谷区岡本で行われます。

【公益財団法人静嘉堂 ホームページ】

<https://www.seikado.or.jp/>



大学共同利用機関法人 人間文化研究機構

国文学研究資料館

国文学研究資料館は、国内各地の日本文学とその関連資料を大規模に集積し、日本文学をはじめとする様々な分野の研究者の利用に供するとともに、それらに基づく先進的な共同研究を推進する日本文学の基盤的な総合研究機関です。

平成26（2014）年度からは、人文系では初の大規模学術フロンティア促進事業「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」がスタートしており、国文研が中心となって国内外の大学等と連携し、日本語の歴史的典籍のデジタル化と、国際共同研究ネットワークの構築を推進しています。

【国文学研究資料館 ホームページ】

<https://www.nijl.ac.jp/>

【日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画】

<https://www.nijl.ac.jp/pages/cijproject/>